

⑤地域と協働で取り組むG30

磯子区編

磯子区G30応援隊物語

1 はじめに

①磯子区G30応援隊とは

「個人の自発的」ボランティア団体「磯子区G30応援隊」(以下「応援隊」という)は、循環型社会に向けた活動を充実するため、平成17年度に「磯子区G30キャラバン隊」を発展的に解消し、環境問題に関心が高い区民を中心に結成された団体である。現在、100名の隊員(平成20年10月末現在)を擁している。

行政も参加し、情報やアイデアの共有を図っている。このような応援隊は、磯子区が誇る、横浜市でも稀有といつても過言でないボランティア団体である。それでは、「磯子区G30応援隊」物語を始めよう。

2 応援隊誕生序章

①キャラバン隊の発足

先行区として分別拡大へ
平成16年10月から、先行6区として、区内一斉にスタートする家庭ごみの分別収集品目の拡大に向け、同年4月に「磯子区ごみゼロ推進委員会」(当時)が、新しい分別方法を区民にどう理解を深めてもらうかの検討会を開いた。その結果、市民の目線に立ち「分別ゲーム」などを通して、正しい分別方法を分かりやすく説明する分別エキスパート「磯子区G30キャラバン隊」(以下「キャラバン隊」という)を結成することになった。

中心に約60名が参加した。隊員は3日間にわたる分別研修会を経て、地域の分別説明会や夏祭り、健民祭(分別競技種目)など、イベントにあわせ分別ゲームを行った。家庭から出た実物の資源物を用いる分別ゲームを昼夜を問わず行った活動は、「分かりやすい、親しみやすい」など区民から高い評価を受け、参加依頼が数多く寄せられた。

②分別啓発ビデオ「抜けようG30のWA!」の作成

G30分別ビデオとは、新しい分別方法が開始される以前と分け方の大きく異なる「古紙とプラスチック製容器包装を主なターゲット」として、分別後の再利用過程をある家庭の日常をモデルに作成した。登場人物の多くはキャラバン隊員が演じ、また、シナリオの原稿作りや監修もキャラバン隊の主体で行った。

ビデオは、区連合町内会を通じ、1町内会・自治会に1本ずつ配付して見ってもらうようにした。分かりやすいのでは非回覧したいと、ある町内会は町内会の費用でダビングし

た。

3 キャラバン隊から応援隊へ

①応援隊発足と隊員の募集

分別拡大後半年が経過し、ある程度分別方法が区民に定着した平成17年4月にキャラバン隊を今後どうするかを話し合った。

その結果、「磯子区G30応援隊」と名称を変え、G30の目標達成及び将来の環境問題を担う子供達に対する環境教育に取り組むことになり、新たなチャレンジが始まった。

移動リサイクル実践教室の講師ボランティアを中心に活動してきたキャラバン隊から、やる気のある応援隊員を募集した。活動を拡充するため、区連合町内会長会議に隊員募集チラシの全戸回覧を依頼するとともに環境事業推進委員委嘱式でも募集案内を行なった。

その結果、ごみの分別や環境問題に関心のある主婦同士の横のつながりなどから口コミで、区民104名の登録があった。

②応援隊の活動

応援隊は、市民が「何故、このように分けるのか」と疑問に感じ、あるいは、分別に迷いがちなものを市民の目線で分かりやすく、楽しく理解してもらうために、行政と協働し、あ

る時は独自に活動している。その活動は、分別ゲーム、移動リサイクル教室、ビデオ作成、リーフレット作成など様々なアイデアに富み、柔軟で積極的である。

区内を7地区に分け、各地区は自主的に活動しているが、更に活性化するため、毎月、地区代表者会議を開いている。

②活動と区民の反響

当初は、移動リサイクル実践教室のボランティア講師を

執筆

仲川 高照
前資源循環局磯子事務所長



写真1 パワーポイント

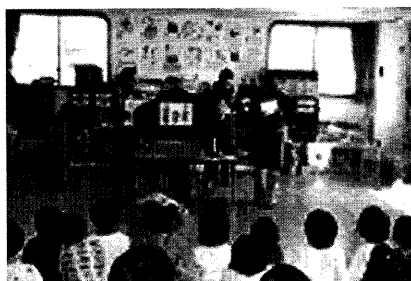


写真2 紙芝居

② 応援隊の主な活動

必要な知識、スキルを確保

するため、全員が2日間の研修を受講し、応援隊員として新たなスタートを切った。応援隊の主な活動は、G30分別ゲーム、紙すき教室、便利帳、環境教室などであるが、内容はその時々、その場に合わせ変えている。

これらの活動に必要なパンフレット、啓発物品、資機材等は区と一緒に案を練り、区の予算で作成し、活動費等は区から助成を得ている。

(1) G30分別ゲーム

G30分別ゲームは、分別方法を説明するために応援隊が考案した。資料を配って説明するだけでは分かりにくいと、ごみのサンプルを持ち寄り説明会の会場やお祭りなど人の集まる所へ出向いて分別に関するクイズとその答え合わせをするものである。

クイズ形式にすることで参加者は飽きることなく楽しめたようだった。応援隊員は区内各地域にいるので、近所の人々が駆けつけることになる。顔なじみの人の説明で場が和んだことも度々あった。

また、お祭りの会場では親子連れも多く、親子そろって和気あいあいと分別の学習を体験していただいている。

(2) 移動リサイクル実践教室(紙すき教室)

実践教室は、牛乳パックから取れるバルブを原料にハガキ作りを体験しながら資源の大切さを学ぶ体験学習である。特に小学校の授業やクラブ活動、町内会の子ども会などから申し込みが多数あり、講師役として地域の応援隊が駆けつけて資源の大切さの説明とハガキ作りの実演を行っている。これは、横浜市PTA連絡協議会のHPでも紹介された。

しかしながら、購入したバルブによる紙すきが主で環境が従となりがちであったため、リーフレットの再作成や進め方を区と見直し、移動リサイクル実践教室に衣替えした。

(平成19年度実績30回、2128人)

(3) こども環境教室

平成19年度から区主要事業「磯子発 地球に優しいプロジェクト」の1事業として、従前から行ってきた分別を中心とした環境教育を拡充した。

磯子事務所が作成した幼児向けパワーポイント「ミーツもったいないおぼけ」(写真1)や分別釣り堀ゲームを区内13保育園等で区と協働で実施した。20年度は、環境教育の実施新規施設はパワーポイント、再実施施設は応援隊手作りの新

作紙芝居「愛ちゃん幼稚園へ行く」(写真2)と使い分けし、区と協働しながら展開している。(平成19年度実績21団体、2090人)

(4) G30便利帳

便利帳とは、「おしえてミーツー まちがえやすいものって何？」と題し、区との協働で17年度に作成したリーフレットである。これは、分別拡大後1年が経過し、分別排出の定着につれて間違えやすいものが分かって来たのを受け、それに照準を当てて作成した。永く保存してもらえるように、誰にでも分かり易く見易いよう工夫を凝らした。

また、配付先も応援隊員や環境事業推進委員、自治会、町内会の役員あるいは環境問題に関心の高い人などに絞った。知人等から分別の仕方を聞かれた場合の参考資料になっている。

(5) 市のイベント出展(パシフィコ横浜展示等)

パシフィコの「ウエステック2006」で「廃棄物処理・再資源化展」や横浜港大さん橋ホールで開催された「もったいないフェスタ」等多くの市イベントに出展し、分別ゲームや自作製ビデオの放映、替え歌「ごみ分別のチャチャチャ(注1)」の再生、分別つり掘り

ゲーム等を行いG30の推進に一役買っている。

(6) 他都市団体との研修会

隊員の意識向上のため、応援隊と他都市ボランティア団体等とごみ分別に関する意見交換会を平成18年度から開催している。

同年は生ごみや落ち葉の堆肥化に取り組んでいる川崎市麻生区の「あさお生きごみ隊」、鶴見区三ツ池公園を活用する会「や分別排出ときれいなごみ集積所づくり」に町内会を挙げて取り組んだ港南区「奈良地区町内会」と行った。

各団体の活動報告後意見交換を行い、大いに刺激を受けると同時にごみ減量、環境問題を考える良い機会になった。

4 応援隊の底力

一体、応援隊は何万人の区民と触れ合ったのだろうか。

この地道な活動が、磯子区を横浜市の中でも上位の削減率(表1)に導いた一大原動力であると言っても過言ではない。こうした活動は、17年3月の朝日新聞、tvk「ヨコハマ編集局」の他「ニコミ誌」で紹介された。

最近では19年6月の「こんにちは市長です」で、「今後どう協働してG30をより推進して

いくか」をテーマに市長と熱心に懇談するなど、活動は続いている。

順位	区	削減率	順位	区	削減率
1	神奈川	-39.9%	11	西	-34.2%
2	港南	-37.9%	12	保土ケ谷	-32.8%
3	瀬谷	-39.5%	13	南	-32.5%
4	磯子	-37.3%	14	緑	-32.4%
5	泉	-37.0%	15	青葉	-28.9%
6	金沢	-37.0%	16	栄	-28.6%
7	旭	-36.9%	17	戸塚	-27.9%
8	鶴見	-35.1%	18	都筑	-25.3%
9	港北	-35.0%			
10	中	-34.3%			
				全市	-34.1%

表1 平成19年度 家庭ごみ削減率実績 (対13年度比)

(注1) 区が募集した分別アイデアの優秀作の一つ。「おもちゃのチャチャ」の替え歌。著作権者のご理解により、使用1か月限定でテープを区が40本作成。子供が自然に覚えるよう磯子小学校合唱部に依頼しテープに吹き込み、区内全小学校と収集車で放送。歌詞を覚えて、という依頼多数。